

旧柏野尋常小学校奉安殿

奉安殿とは

奉安殿とは、学校に下賜された「御真影（天皇や皇后の写真）」や教育勅語などを安置していた建物のことです。御真影は当初校舎内の奉安所に安置されていましたが、学校の火事に際して御真影を守って校長が焼死する事件も起こるなかで、校舎から離れた地点に堅固な奉安殿を建設し、御真影を安置することが大正期以降顕著となりました。

奉安殿の建設は昭和10年以降全国的に実施され、国民精神総動員運動と連動した形で登下校時の奉安殿への最敬礼が一般化し、御真影はますます神格視されていきました。

敗戦後、文部省の命令などによって奉安殿は撤去され、御真影は焼却されました。

柏野尋常小学校について

柏野尋常小学校は、1929（昭和4）年に「西別小学校附属上春別第四特別教授場」として開校、児童数は134名でした。1931（昭和6）年に柏野尋常小学校に改称、1941（昭和16）年に柏野国民学校に改称しています。

1944（昭和19）年、計根別第三飛行場の建設のため、開進国民学校の移転が強要されると、柏野国民学校も「巻き添え」になり、両校は解体されて大成国民学校となりました。

現在校舎のあった場所には柏野会館があり、1937（昭和12）年に柏野青年団が寄贈した小学校校門の一部が現存しています。

柏野尋常小学校奉安殿の歴史

柏野尋常小学校の奉安殿は、1937（昭和12）年10月5日に竣工しました。建築費は700円で、そのうち350円は柏野地区からの寄付によって賄わ

れています。竣工当時の写真が残っていますが、この写真から当時の柏野地区の人たちが、奉安殿建築工事にも従事していたことがわかります。

奉安殿建設の契機は、昭和天皇の北海道行幸でした。1936（昭和11）年秋、昭和天皇は石狩平野での陸軍特別大演習に前後して、道内各地を行幸しました。10月10日に、柏野尋常小学校で奉迎式を挙行し、住民が多数参列しました。その時の記念事業として奉安殿建築が決議され、保護者会で寄付募集が開始されたのです。

御真影が下賜されたのは、完成から1年後の1938（昭和13）年10月30日のことで、この日は柏野尋常小学校の記念日に制定されました。

僅か15年の柏野尋常小学校の歴史に暗い影を落としているのが、北海道綴方教育連盟事件です。型にはまった作文ではなく、子どもたちにあるがままの生活を綴らせる生活綴方教育の実践が「プロレタリアの階級意識を培育」しているなどとして、1940（昭和15）年から翌年にかけて50人を超える教師たちが治安維持法違反で逮捕されましたが、当時柏野尋常小学校の校長も逮捕された一人でした。

1944（昭和19）年に柏野国民学校が廃校になると、奉安殿は地元の神社に転用され、中に納められていた御真影は大成国民学校に移されました。

戦後の撤去命令にもかかわらず柏野の奉安殿が現存しているのは、昭和19年の時点で柏野国民学校は存在せず、同年に奉安殿を柏野神社としたため、戦後に撤去の対象とはならなかったためと推測されます。

建設から70年以上を経過して破損が著しく進んだことから、別海



旧柏野尋常小学校奉安殿竣工時（昭和12年撮影）

町教育委員会では平成25年に町指定文化財に指定し、平成27年に保存修理工事を行いました。



修理工事前の奉安殿（平成24年）

旧柏野尋常小学校奉安殿の特徴

本奉安殿の最大の特徴である半円形状の屋根は、別海村内に作られた奉安殿に共通するもので、道内に現存する奉安殿に類似の形状は見られません。1934（昭和9）年10月に建設された別海村役場玄関部の形状によく似ており、設計者が同じであったと推測されています。

奉安殿内部には、御真影や教育勅語を納めていた御真影奉蔵棚（下写真）が残っています。これは、数寄屋建築で多様される端喰（はしばみ）工法による極めて珍しい建具の製作方法を確認でき、地域性や当奉安殿に関わる施工者技量を考えた時、当奉安殿に寄せる施工者の意欲の高さを改めて再認識させる貴重な部位です。

